

素敵な人生

素敵なパートナー



市男女共同参画推進懇話会委員
梶岡 澄子

今回、男女共同参画推進委員になり改めて男女共同参画について考えてみることにしました。以前、女性は結婚すると家に入り専業主婦になり家事をするというパターンが多かったと思いますが、今や共働き夫婦というのが当たり前になり女性の職場進出もめまぐるしいものがあると思います。

こういう背景もあり男性は主婦ならぬ主夫、イクメンならぬイクメンという言葉どおり家事や育児をするようになってきていると思います。

昨年11月28日付けの熊日新聞に面白い記事が掲載されていました。それは「リング」「らせん」などのベストセラー作家で子育て

体験エッセーなども手がけられている鈴木光司さんが大津町で講演をされたときの話です。

作家としてデビューする前から奥様が高校教師の鈴木さんは2人の娘さんの保育園の送り迎えや洗濯、夕食作りなど家事を担当していたそうで、「赤ちゃんを育てていると創造力や忍耐力が身につく、その結果、小説がどんどん書けるようになり『リング』が完成した」と体験を紹介しています。

男女共同参画という言葉だけ見るとなんだか堅苦しく考えがちなですが、鈴木さんのようにプラス思考で考えることができれば家事や子育てもきつと楽しくなると思います。

これからの時代は男だから女だからではなく「できる事」に「できる人」が「できる時」に無理なく楽しくできれば、男女共同参画とあえて言わなくても自然と実践されていくのではないのでしょうか。

こうし歴史発見!

第47回

合志市内の学校 その四 豊岡小学校・栄小学校



昭和15年頃の豊岡小学校

豊岡小学校
竹迫小学校と同じく明治7年(1874)に、豊岡村・原口の民家を仮校舎にして、熊本から藤井貞吉氏を招き開校しました。

その後、上庄の民家・原口の真教寺・豊岡の藤井氏宅を経て明治21年(1888)、現在の中部保育園の地に移転しました。その間、明治19年には群分教場が開校しています。また明治30年代に補習科・裁縫科・高等科を付設しています。

昭和20年(1945)にはアメリカ軍機より銃撃を受けましたが、日曜日であったので幸い負傷者はありません。



昭和15年頃の栄小学校

せんでした。創立から昭和34年までの86年間の卒業生は2,889人です(ただし、竹迫小学校と同じく明治21年が第1回の卒業生であり、それ以前の卒業生数は不明です)。

栄小学校
明治23年(1890)、中林の塚本勝意氏の竹林に竹迫小学校の支校として設立されました。それまで当地域の児童は合生の弘生にある弘生校に通学していました。設立時の児童数は50人、訓導(教師)は菊池市泗水町住吉の渡邊惟誠氏が勤めました。

明治25年、竹迫小学校から独立して栄尋常小学校と改称しました。この年校長となった渡邊氏は大正4年(1915)まで勤めています。大正年間に農業補習学校と青年訓練所を付設しています。

昭和11年には恵楓園に分校場が設置されました(同18年休校、同24年分校設置、同51年閉校)。創立から昭和34年までの69年間の卒業生は1,603人でした。

人生楽しく生き生きと!

輝いていますかあなたの人生

市内には、さまざまな特技や能力を生かして、生き生きと毎日を過ごしている高齢者がたくさんいます。いつまでも元気に楽しく過ごすために「生きがい」をもって生活することが大切になってきます。

パソコンを駆使してノンフィクション小説の執筆活動に取り組まれている、荒川強さん(上須屋)にお話を伺いました。



▲執筆活動中の荒川さん

老人力を養う
私は今年の4月で満91歳になります。今から5年ほど前に妻を20年間にわたる在宅介護の末に亡くし、その悲しみとショックから体調を崩し、死を覚悟したこともありましたが、あることをきっかけに眠っていた自分の老人力を目覚めさせ、生気を取り戻し立ち直ることができました。

妻亡き後、夢も希望も失い、家にこもり悶々とした日々を送っていました。が、このままでは一挙に老いが進み、あの世へ直行だと悔い改め、87歳からパソコンを始めました。これが私にヒットして、文書作成ソフト「ワード」でいろいろな文章や詩をつづったり、ネットを楽しんだりすることがライフワークとなりました。

一昨年、私の長年の夢でした中国の大連再訪を72年ぶりに果たし、その紀行文を「大連慕情」と題して、県民文芸賞に応募して賞を頂きました。また昨年は「妻の介護物語」を執筆し、その中の「哀愁の四季」と題した詩が、歌になりCDにもなりました。そのうえ沖繩をはじめ、東京などで開かれるコンサートでも歌われていて、老骨



▲市長に表敬訪問された荒川さん(中央)と翔白陽さん(左)

の私の中に埋もれていた創作意欲をますますかきたて、私の生きる活力源となつていきます。

人間の一生は人との出会い巡り合ひの如何によつて人生が大きく変わるころがあります。私の最晩年がこのように思いもよらぬ展開になったのは、野々島にお住まいの翔白陽さん(合志市音頭の作曲者)との山頭火をご縁にした出会いがあったからであることを申し添えておかねばなりません。

高齢の皆さん、自分はもう歳だからと言って、立ち止まりうずくまってしまつてはおしまいです。夢と希望を捨てず、どんなささいなことでもいいから、今の自分に見合った生きがいを探し出し、それに向かってコツコツと努力を積み重ねる一日であり、一年でありたいものです。

みんなで楽しく介護予防



地域の人たちがみんなで健康づくりをしようというサークルが、1月に発足しました。自主サークル篠の会(しののけ)は、民生委員の声かけで参加した竹迫横町、下町の高齢者をはじめ、現在20人ほどで毎週火曜日(第4週を除く)の午前中、ヴィーブルサブアリーナで活動しています。

公認指導士の指導のもと、「3B体操」で身体を動かしながら、体力の維持向上と、閉じこもり予防に役立て、元気な高齢者を過ごすことができるよう、楽しみながらの健康づくりを目指しています。健康づくり・仲間づくりに参加してみませんか。

参加費
月2,000円

問い合わせ先
(75歳以上の人は1回500円)
篠の会 宮崎
☎(248) 0715